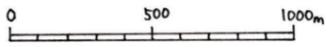


柳井お宝マップ

伊保庄地区編

制作 豊笑家倶楽部 2006.2

2026.3修正



旧旭橋(小田橋)
1878(明治11)年初めて架けられ、1910(明治43)年まで通行料を徴集していた。現在の橋は1932(昭和7)年架け替えられたもの。現在は通行不可。



土籠石川 排水機場
高潮対策のため設置された。

小島神社

現在の祭神は保食神となっているが昔鳥の霊を祭ったものといわれている。すばらしい鳥が生まれた所ということで「鳥王庄」と名付けられ、また「伊保庄」になつたという伝説がある。また、五色の鳥の霊をまつり、「五鳥宮」と名付けられ、いつのころか小島神社と呼ばれるようになったといわれる。小祭は、5月14日、7月24日、10月14日に輪番制で行われている。



専称寺(浄土宗)

天正年中(1573~91年)願行善が開山。境内にある影向の井池は名水で、この井戸の水を昆沙門天に供えて服用すると薬効あらたかたと伝えられている。庭園は江戸時代後期につくられたもの。イチョウの大木や、寺周辺のモミジ、ツツジ等は、やまの名木に数えられている。境内に1718(享保3)年建立の等身大の巡行の地蔵がある。



宗寿院(浄土宗)

もとは願行寺といひ、1618(元和4)年開基。一時専称寺へ合併されたが、1872(明治5)年現周南市の宗寿院を引寺して再興。手水鉢に蓋状穴がある。伊保庄小学校(現、柳井南小学校)発祥の地。



伊保庄地区をまわると知りたいた時は、以下の文献をこら下さい。
『伊保庄の歴史』村上省吾、2000年
『伊保庄の地蔵さん(柳井市郷談会誌第2号)』尾川恒祐、1977年
『黒島物語(柳井市郷談会誌第18号)』国宗一、1994年
『巻頭記 賀茂神社(柳井市郷談会誌第21号)』柳井正樹、1997年
『おしらせ 伊保庄公民館、2000年~
『柳井図書館蔵書第九集 中世の柳井について』柳井市立柳井図書館、2004年

赤石神社(厳島神社)

祭神は市杵島姫命、創建は不明。海岸に屏風岩があり、般若様が大島瀬戸で沈まれて後、旧暦大みそ夜半に瀬戸から火の玉が般若寺にある途中、この岩でひと休みするという伝説がある。小祭は、3月17日の新年祭、7月27日の夏祈禱、10月17日の本祭りの3回ある。



黒島神社

伊保庄命を勧請、創建年代不詳。小祭は5月12日と10月12日。境内にはイヌマキ、大森の中にはスダジイ、ヤマモモ、カキ、モチノキなどがあり、やまの名木に数えられている。



サザンセット伊保庄マリナーパーク

もとは「黒島海水浴場」と呼ばれていたが、1993(平成5)年、海浜公園として整備された。夏の海水浴シーズンのみならず、一年中訪れる客が多い。



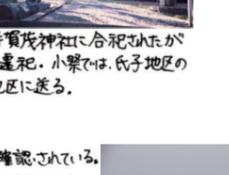
老猿の三連珠

猿三球が3つ連なつたように見える数珠のついた石。1824(文政7)年河内山右衛門が現つた。「三連珠」と名付けられた。伊保庄に滞在した二条義興卿がこの石を見て「動かし御代のためによき時代や、おののすかとも魂ちはかふる」と詠んだ。



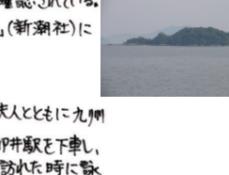
小野天満宮

1825(文政8)年勧請。一時賀茂神社に合祀されたが、1934(昭和9)年旧社地に遷祀。小祭では、氏子地区の者が順次御樂を次の地区に送る。



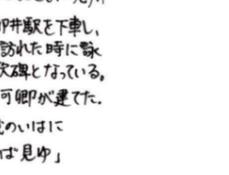
鳥島

無人島、サザンコロニーが確認されている。村上春樹の「辺境・近境」(新潮社)に載っている島。



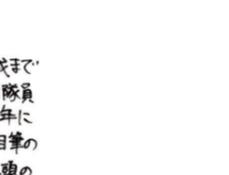
若山牧水歌碑

1925(大正14)年牧水が夫人とともに九州方面への旅行の途中、柳井駅を下車し、村上春樹(可郷)を訪れた時に詠んだ「3首のうち1首が歌碑となっている。1944(昭和19)年村上可郷が建てた。「からす鳥かざりて黒き磯のいはに千鳥こそれこぞよれば見ゆ」



雄心の碑-近藤若美歌碑

国立病院は、1945(昭和20)年の終戦まで陸軍西部第八部隊のあった所で、同隊員の慰霊碑「雄心」が1978(昭和53)年に建立された。同隊員の近藤若美の自筆の歌「柳子の葉の偽装のさやきこの碑頭の明けのぼりけりけり」が刻まれている。



賀茂神社

平安後期、堀河天皇の代に京都賀茂神社の分霊を受けて社殿が造営されたのが始りとされる。祭神は別雷神、玉依姫命、三入野命。7月に夏祭り、10月8・9日には神輿の御神幸がある。この鳥居は市文化財に指定されている。境内の中村八幡宮裏手の小島に、村上星洞の句碑「巖上に漁翁を置いて天高し」がある。境内にあるカ石は、山口から博で使われた。ネズミ、シラカシ、オガタマノキ群、セセシワは、やまの名木に数えられ、社叢全体が市の天然記念物に指定されている。



この地図は、柳井市長の承認を得て平成14年12月作成の柳井市都市計画図及び地形図を使用したものである。(承認番号平成18年2月8日柳都第79号)